

こどもを見つめるページ

リレーエッセー

大まくなあれ

Vol.37

サンタはお寺にやってくる？

帰依龍照



「お父さん、十二月はとても忙しいの？」と長男。「年の瀬が近づくから、何かと忙しいね」「じゃあ、先生から教えてもらったことと本当なんだ？」「どんなことを教えてもらったの？」「ほら、十二月は師走って言うでしょう？お寺の住職さんも走り回るほど忙しいから、師が走る『師走』になったんだって」「へー、そうなんだ！」と知らないそぶり。

「お兄ちゃん、サンタさんも十二月は走り回るほど忙しいよね？」と三男。「クリスマスには、世界中の子どもたちにプレゼントを配らないといけないから、お父さんよりもずっと忙しいかもね」と笑顔で話している。

「今年はどうなプレゼントがもらえるかな？」と二男。「たぶんパソコンのソフトと古代エジプト展の入場券でしょう」―長男は中学生なので、サンタさんの現実を知っている。私たち夫婦によく聞こえるように話してい

るのもそのせいだ。

長男が小学五年生のころ、まぐら元プレゼントをそつと置こうとした時：「あゝつ、サンタさんはお父さんだったんだ！」―あのころが懐かしい。今では、夢を与えられる立場から、夢を与える立場に成長してくれている。二人の弟たちに「サンタさんにどんなプレゼントをお願いするの？」と聞き、「僕たちは、サンタさんに任せるよ」と言われて「ちゃんとお願ひしておかないと、プレゼントが多いから間違えるかもよ」とお兄ちゃんらしいことを言っている。

「あつそうだ！ サンタさんはお寺にもやってくるかな？」二男の一言に「えつ、お寺だとサンタさん来ないの？」三男は今にも泣き出しそうな顔をして

寺院の住職という立場の父親

を持つ宿命である。常日ごろから「クリスマスはイエス・キリスト様の誕生をお祝ひする日。クリスマス・イブは、その前夜祭。その教えを人生の支えとしてい

る人たちにとつては、聖なる日。ただプレゼントを交換するだけの行事ではないよ」と私が話していることを、二男は覚えていたようだ。

「お釈迦様の誕生日をお祝ひする四月八日の『花まつり』が、お寺のクリスマスと同じだよ」と話すと、「じゃあ、やつぱりプレゼントはもらえないんだ」とうとう三男は、泣き出してしまつた。

「でも、世界中の子どもたちに配つて余つたら、お寺にも来てくれるかも。良い子にしていたらきつと大丈夫だよ」

昔、長男に私が話したことを、長男が三男に言い聞かせている。子供たちには、いつまでも夢を持ち続けていてほしい。彼らの思いがサンタさんに届きますように。父より。

(コザ真宗寺 旧コザ本願寺住職)

このコーナーは、日々こどもたちとかわる方のエッセーです。

〈執筆者〉

○帰依龍照(住職)

宮城英雅(小児科医)

平良辰浩(学童クラブ指導員)

下地直也(保育士)

真栄城栄子(くすぬち平和文化館)

新里恒彦(ケルン苑主管)

ご意見はがきかファクス、Eメールで編集部までお寄せください

遊び場スケッチ

豊見城市立真嘉部コミュニティセンター内

オンヤベリは

入松川丈浩くん・入松川嵩浩くん
石川 哲平くん・名嘉 竜治くん
松崎 暁くん (長嶺小学校三年生)



(左上から) 丈浩くん、竜治くん、哲平くん、暁くん、裕平くん(幼稚園)、嵩浩くん



(竜治くん) 俺たちはみんな仲良しな。学校からもいつもいっしょに帰るし、放課後もほとんど毎日いっしょ。

(嵩浩くん) ここの遊び場ができて、ずっとみんな来て。家は歩いて一分ぐらいで、竜治の家なんか五十歩ぐらいで帰れるはずよ。

(丈浩くん) 学校の勉強で楽しいのは、総合の時間。今日はミニトマト、レタス、ニラなんかを植えた。これから、野菜の成長をみんなで学んでいくなだよ。

(暁くん) 国語も楽しいよ。動物と人間のかかわり方なんかを勉強してる。

(嵩浩くん) 社会では、豊見城市内の高安ニュータウンや嘉数、長嶺をみんなで見て回って、そこの風景や様子を書いて報告するんだ。

(哲平くん) そろそろさ、広場で俺たちの一輪車の技を見せてあげるよ。行こう!!